

令和元年度 社会福祉法人白鳩会事業報告

令和元年度の保育業界は国の新たな子育て支援の施策である「幼児教育・保育の無償化」が10月より施行され、事前の準備や運用後の対応に追われることになりました。

認定こども園においては1号認定児童部分の保育料が無償化されたことから今後は幼稚園利用のニーズも増えてくるため、3歳以上児の園児の獲得には積極的な情報発信が必要になることを実感しました。他方、2号認定及び3号認定児童については、保育士不足のため、年度当初或いは年間通じて定数外の園児の受け入れができず定数の受け入れで運営する状況となりました。

人事面については、今期、園長、副園長、主任の異動がありました。

職員の採用については、保育士のみならず調理関連の人材確保も困難になってきました。(東京・愛媛・大阪市)さらに年度途中での退職の案件も増加傾向にあり、採用人事も年間通じて行わなければならない、当然求人広告費や人材紹介会社への手数料の支払い総額も年々増加しており園経営にマイナスの影響を与えています。

人材の育成に関しては、各園の地域特性なども考慮しつつ、保育に対する根幹の考えを法人が運営する施設全体で統一した内容で日々の保育にあたるように作成した「保育の一日の流れ」について半年をかけ毎月1回定例で、実際の保育の流れに沿って園児に対して保育の実施方法を見学した後、各園の保育士が意見を出し合う形で全員参加型の研修を行いました。

また、処遇改善手当の支給要件であるキャリアアップ研修、マネジメント研修にも計画的に参加し、保育士自身のスキルアップやこれまでの振り返りの機会としました。

竣工や改築後10年以上経過している園において、特に設備系統の修繕費の支出が多くなっています。予算計上の上実施する案件がある一方、予測がつかない突発的な故障による修繕案件が多くなってきていますが、定期的な診断等を活用するなどして、可能な限り計画的な運営ができるようにします。

浜竹、生石、平井、山王の公設民営園については、各市区の当局と連携して施設、設備が維持できるようにしました。(大きな修繕等は原則行政負担の契約)

1月下旬から新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各園の行事が中止や縮小が余儀なくされ、園児や保護者にとっては残念なことになりました。

一方で園の運営は感染拡大のため園児、保護者、職員の日々の体調管理に加え、園内の消毒・除菌作業など本来の保育以外の業務が増えてきましたが、感染症対策において園児や、保護者、職員に蔓延させず、日々安全に保育が継続することができるかを考え、マニュアルの見直しをすることができた点では法人にとって役立つ案件であったと考えます。

当法人においては施設が広域に跨り、危機管理体制において行政からの指導内容も違う中、如何に法人内で統一したガイドラインを作成していくかについてこの感染症に限らず、様々な感染症への対応として今後の検討材料としたいと思います。

平井保育園において福祉サービス第三者評価を受審し、評価機関、保護者アンケート、自己評価から園の現状を調査していただくとともに保育や運営の振り返りを行うことで人材育成の一助となりました。